

京都の福祉

発行 京都府社会福祉協議会

2008

3
March

No.478

「夏も近づくと八十八夜…」八十八夜は、立春からかぞえて八十八日目にあたる日で、だいたい5月2日頃です。ここ木津川市山城町の茶畑では茶摘みの時期を控え農作業に追われる日々が続きます。山城町は明治の頃、お茶の輸出でたいへん栄えました。町内には今も往時を偲ばせる茶問屋の倉が立並びます。



本紙は、共同募金の配分金によってつくられています。

主な記事

- 1面…もえくさ
- 2面…福祉施設のお店紹介～カフェ樹林～
- 5面…福祉送迎サービスの現状と課題
- 6面…「見守りフォーラム in きょうと
- 8面…日本地域福祉学会第22回大会案内

もえくさ

「3Kが好きだ」と大書された生コン工業組合のポスターに思わず見入った。「3K」と聞いたら、読者の方は何を思い浮かべるだろうか。野球ファンなら「3者連続の三振」というのもあるかも知れないが、多くの方は、「きつい・きたない・きけん」の三文字を連想されるだろう。とすれば、「3Kが好きだ」とは？▼ポスターにはこう書かれていた。「オレ、20歳。高校卒業後、生コンに就職して2年。最初は「きたない」「きつい」「きけん」の3Kだと思っていたけど、案外そうでもなかった。…オレ達をつくった生コンが、高層ビルやダムなどに使われているかと思うと気持ちが悪くワクワクしてくるし、ちょっとカッコイイ。…大先輩に教えてもらった言葉だけど、「感動」「感謝」「貢献」の3Kを、いつも心にしらべておきたい」▼3Kは1990年頃、労働現場での人手不足が顕著になり登場した。92年の流行語大賞表現部門には「9K」まで登場したようだ。看護現場からの訴えで、先の3Kに「休暇が取れない」「給料が安い」「婚期が遅い」などが加わる。当時こうした状況の下で、92年「看護人材確保法」の制定、93年「福祉人材確保指針」が示された。▼近年、ITエンジニア「新3K」として、「きつい・厳しい・帰れない」が業界の労働環境の代名詞とされるなど、3Kにはマイナスイメージが付きまわってきた。最近の福祉人材確保のなか、メディアによる介護・福祉現場のネガティブ・キャンペーンで改めて使われ、人材確保に拍車をかけた感がある。▼そんな中、冒頭のポスターは3Kを逆手にとって現場労働者のやりがい・実感をプラス対置して爽快感。「シルバー新報」は、「現場発／ホントは楽しい介護の仕事」の企画を連載中で、こんな文章がある。「僕にとつての介護の3Kは、「感情」「感動」「感激」です。家族でもない人の人生や生きがいに最後までより添い関われるなんて、こんなすばらしくやりがいのあることはありません」▼舞鶴市にある精神障害者就労施設「レストランほのぼの屋」の職員とメンバーから、「お客さんをもてなし喜んでもらえる、この仕事が好きして仕方がない」と笑顔で話す心からの言葉をきいた。府教育委員会主催のボランティアフォーラムで園部高校の生徒達は、心身にハンディのある方と一緒にいったデイキャンプの感動を、「学校では学べない福祉の現場がわかり、将来の進路の目標が見つかった」と発表していた。▼そこで提唱したい。介護報酬改定等の条件整備を求めつつ、福祉現場からの「新3K」きつと・心に・共鳴）、そして利用者たちと分かち合う「3Y」(喜び・やりがい・夢)を、もっともっと社会に発信していきませんか。本会もその一翼を担いたい。

産学連携

大学と福祉施設との協働

福祉施設のお店紹介 ～カフェ樹林～

ノーマライゼーションの実践の場として“共生”を推進

2006年4月、龍谷大学深草キャンパス内に知的障害者が働くカフェ「カフェ樹林（じゅりん）」がオープンしました。キャンパス内の中央に建設された交流施設内にカフェが設置され、その運営を向日市の社会福祉法人「向陵会」が受託しています。オープンから約2年が経過した「カフェ樹林」を訪ねました。



大学の中庭に円盤型の情報掲示施設があり、マライゼーションの理念を実践し、地域社会へと発信していくことを目的に設置されています。この中に「カフェ樹林」があります。流行のBGMが流れるこのスペースで、学生たちは「コーヒーキキ」等を注文し、楽しいひと時を過ごしています。

カフェの運営

「カフェ樹林」は、龍谷大学自らが開業し、オープン当初は向陵会の職員が2人、障

害を持つ人3人の計5人で運営がスタートしました。カフェの中で作業や体験をステップに、3人のうち2人が一般企業に就職しました。今は、就職した2人に代る新人3人が加わり、1週間を4人でローテーションを組み、常時2人が職員2人とともにここで働いています。

「カフェ樹林」は、母体施設である知的障害者通所授産施設「乙訓ひまわり園ワークセンター」（向日市）の外に設置されており、「企業」と「施設」の間の中間的な施設という位置づけになっています。

仕事の役割分担は、フード（調理）担当、洗い場担当、受付担当と分けられています。受付担当では、臨機応変な対応が求められますが、接客が好きな人には力が発揮できる仕事です。レジで会話をし、何を食べようかと悩んでいる人にはお勧めのメニューの紹介もします。また、キャンパス内で開催される会議への出前も行っています。お店に来た学生と障害を持つ人が仲良くなったり、カフェを利用する学生も広がっています。多い時には1日で150人以上もの利用があるそうです。

②

メニューは、様々なドリンクメニューの他にパンを使った軽食メニューも用意されています。母体施設の「乙訓ひまわり園ワークセンター」の喫茶・製パン部門で焼いた手作りパンもあり、施設で製造されたものがカフェを通じて広く販売されるなど、いい循環ができています。

お勧めのメニューは、バケットサンド、ホット

康福祉コース）徳田眞三准教授から大学としての「カフェ樹林」の位置づけを説明していただきました。

短期大学には、心理・スポーツ・レクリエーションなど福祉関連領域について学ぶことを目的とした「健康福祉コース」があり、「カフェ樹林」は卒業単位に必要な実習（必須単位）現場の一つとして位置づけられています。「健康福祉コース」は、「自分の身のまわりのことに、福祉」が存在している」という観点から実習が設定されていると

③

2007年度は、前期のみで約25人の学生が「カフェ樹林」で実習を行いました。実習形態は、学生の授業の履修状況に応じて設定されます。例えば、1時間目と3時間目に授業があり、2時間目が空いている場合に、その時間帯に実習時間が組み込まれています。学生がカフェで働くことで、就労支援を受けている障害を持つ人と同じスタッフという立場でふれあい、1回に入る時間は短い反面、長期的に関わることで、学生達はいろいろなことを学んでいるそうです。

「カフェ樹林」での実習を通じて学んだこと

「カフェ樹林」としては、実習に来た学生に「コミュニケーション」の大切さを学んでもらっています。「実習に

トドック。乙訓ひまわり園で製造されているパンを使い、ケチャップのかわりに黒酢とからしマヨネーズをソースとして使っています。酸っぱさと辛さが絡み合っており、オープン当初からの大人気メニューです。

カフェを中心にメニューが展開されていますが、特にフードメニューは、学生がワンコイン（500円）以内で食べられるように価格が設定されています。学生食堂との兼ね合いや採算面などから価格設定が難しくなっています。

大学としての位置づけ

「障害を持つ人と近くに接しながら共に学んでいく」という大学の理念「共生（ともいき）」を推進していくための場としてカフェがあります」と、短期大学部社会福祉科（健



高齢者、障害者の地域での暮らしを支える送迎サービス

現状
と課題



運転者講習会の様子

家用自動車による送迎サービスとは

1970年代に関東地方から取り組みがはじまった送迎サービスは、日本財団等による福祉車両の寄贈を契機として、

全国に急速に広まってきました。平成16年3月に国土交通省から出された通知「福祉有償運送及び過疎地有償運送に係る道路運送法第80条第1項による許可を取り扱いについて」により制度化が図られ、その後、平成18年10月の道路運送法改正で法律上の位置づけがなされて現在に至っています。

NPOや社会福祉協議会等が行う送迎サービスには、次の2種類があります。

①過疎地有償運送：タクシー等の公共交通機関がない地域の住民

②福祉有償運送：高齢者や障害者のうち、

してカフェに関わる学生もいるそうです。2006年度は2人、2007年度は5人程がボランティアとして継続した関わりを持っています。毎週、忙しいお昼の時間帯に授業が終わってから手伝いに駆けつけ、手伝いが終わってから午後の授業に戻っていく、こうしたボランティアとして学生の自然な関わりも広がっています。

カフェで働くボランティア

「カフェ樹林」で働く米村梨加さんから、カフェでの仕事のこと、学生とのふれあいについて話を聞かせてもらいました。

「一番うれしかったことは何ですか?」の問いかけに、「学生さんと話をしたり、お客さんが来てくれることが一番うれしい。ここで食べてくれたり、美味しかったよと声をかけてもらえたりするのがうれしいです。逆にお客さんが少ない時は寂しいです」と答えてくれました。「仲良くなった人がたくさんいます。ここで友達になった人も街で見かける時もあり、声をかけあいます」と、学生とのふれあいの一端も紹介してくれました。また「オーダーを書いているのに、通すのを忘れたり、お金をもらったのにそのまま置いてしまったり...」と、ちょっとした失敗談も聞かせてくれました。

これからの展望

「2訓ひまわり園」としての今後の展望は、

自力で公共交通機関が利用できない方

京都府内における送迎サービス

京都府内では約60団体が送迎サービスを実施しており、500名を超える方々が運転協力者として活動しています。大きな広がりを見せている送迎サービスですが、抱えている課題も少なくありません。

主な課題の1点目は、利用料金です。制度上、利用料金はタクシーの1/2が上限とされているため、送迎サービス団体の多くが、運転協力者への謝礼や燃料費などの経費をまかなうために、他の活動で生み出した財源を充当して活動しています。しかし一方で、定期的に通院が必要な利用者にとっては繰り返し利用すると負担が大きく、特に透析患者の方で月に数万円になるケースもあります。

2点目は、運転協力者の不足です。平成16年の制度化に伴い、2種免許を持たない運転協力者には講習が義務付けられました。その結果、より安心・安全な送迎サービスを提供するための基盤が整いましたが、一方で、運転協力者にとっては、活動が気軽にはじめにくくなった面があります。また、講習は常時開催されていないため、送迎サービス団体にとっては運転協力者の募集がしにくい状況も見られます。

3点目は、現在の有償運送ではカバーで

「カフェ樹林を就労移行の最先端として、また、次のステップとして位置付けていきたい。ここでの忙しさを体験すると、どこでも対応できるようになります」と伊達さんは語ります。

一方、大学としては「カフェを設置したことが大きな動きであり、これを今後いかに進めていくかが重要です。学生がボランティアとして参画し、カフェに関わる機会が増えていくことにより、教学上もいい影響がでると思います。共生(ともいき)をさらに推進していきたい。多くの教職員も利用し憩いの場ともなっています」と徳田先生からも展望をお聞かせいただきました。

カフェ 樹林

OPEN: 10:00~16:00
(月~金)
住所: 京都市伏見区深草 塚本町67
龍谷大学深草校内

(学生でない方も飲食できます)

きていないニーズが数多く存在することです。福祉有償運送では、運転協力者や福祉車両の不足等の理由から、利用目的を病院や行政手続き等に限定している現状があります。また、過疎地有償運送は、全国的にも実施している地域が少なく、京都府内では2市のみとなっており、それ以外の地域でも1日に数本しかバスがない、バス停まで数キロの道のりがあるなど、送迎サービスに対する潜在的なニーズはまだ多く存在しています。

おわりに

現在、各地で展開されている送迎サービスは、高齢者や障害者の暮らしを支える上で地域に無くてはならない活動です。平成19年9月に署名された「障害者の権利に関する条約」では、第20条で「障害者が、自ら選択する方法で、自ら選択する時に、かつ、妥当な費用で個人的に移動することを容易にすること。」がうたわれており、ニーズに見合う移動手段の確保は重要な課題です。本会としても、京都府内においてよりよい送迎サービスが展開されるよう、送迎サービス団体、行政などと連携した支援活動を引き続き展開していきます。

(文責・事務局)



平成19年度高齢者見守り隊事業 『見守りフォーラム inきょうと』を開催

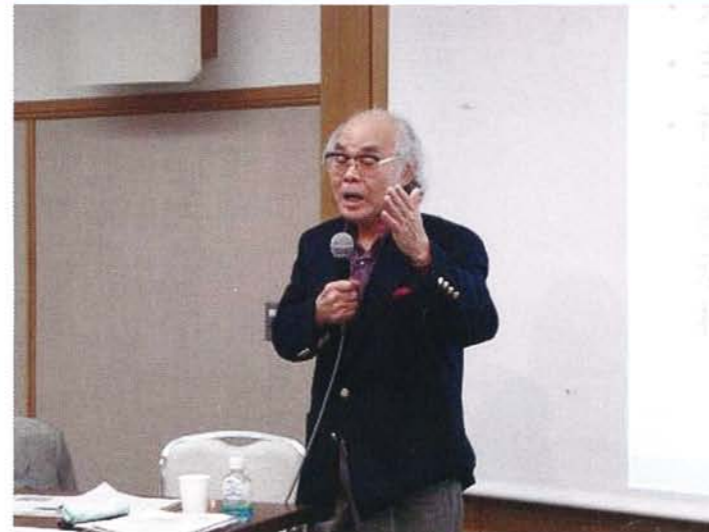
見守りで広がる暮らしの安心・地域のつながり



見守り活動者・関係者が集結

平成20年1月30日（水）、京都テルサにおいて『見守りフォーラム inきょうと』を開催しました。

このフォーラムは、平成18年度から京都府の補助を受けて京都市内市町村社協とともに実施している「高齢者見守り隊事業」の取り組みとして、「見守りで広がる暮らしの安心・地域のつながり」をテーマに活動実践の交流と大切な視点の共有を目的としました。



基調講演：中沢卓実氏（常盤平団地自治会会長）

福祉委員、市区町村社協役員、行政職員等172人が参加し、基調講演とパネルディスカッションを通じ、各地の実践から学びあいました。

孤独死ゼロ作戦の取り組みから

基調講演は、テレビ朝日「スーパーモーニング」やNHK「クローズアップ現代」等各種メディアに取り上げられている、千葉県松戸市の常盤平団地自治会会長の中沢卓実氏をお迎えし、孤独死防止の取り組みを先駆的に展開されてきた歩みをお話いただきました。

内容は、「あいさつがきっかけづくりの第一歩」「死を考えると...」は生を考えると...「見守られる人自身も自分の暮らしを考えると...」が大事」など、地域で見守り活動に取り組み際の大切な視点やリーダーの姿勢を学ぶことができました。

京都発！見守りを通じた「広がり」「つながり」

基調講演を受けておこなったパネルディスカッションでは、向日市社協在宅訪問ボランティア「いきいき85」の岡野和子氏、福知山市中夜久野地区福祉推進協議会理事の植野莊二氏、綾部



コーディネーター：佐藤貞良氏（関西福祉科学大学准教授）

市社会福祉協議会の山下宣和氏、の3人から実践報告をいただき、佐藤貞良氏（関西福祉科学大学准教授）のコーディネートのもと、会場全体で意見交換を行いました。実践報告では、活動を通じた支援の輪をいかに広げるか、活動に関わる人や団体をどのようにつなげるか、住民主体の取り組みを社会福祉協議会としてどのように支援するか、の視点から各地域で展開している見守りやちょっとした支え合いの活動のプロセス、活動上の課題や今後の展望等をお話いただきました。

報告と意見交換を受け、アドバイザーの中沢氏（常盤平団地自治会会長）からは、「地

域の特徴に沿った取り組みづくりが活動の命」「一人一人が変われば地域が変わる」という助言をいただきました。また、コーディネーターの佐藤先生のまとめでは、「地域のつながりは命にも関わって大変重要」「把握した問題の解決を住民ばかりがしては疲れてしまう。必要なことは行政や専門機関が受け止めることが大事」「サロンやグループ活動などの集まる場と見守り活動を連動させていく必要がある」など、大変重要なお話をいただきました。

今回のフォーラムで実践を交流し、積極的に意見を交わす中で、身近な地域における見守りの活動の必要性和意義を再確認するとともに、「見守りを通じた「広がり」「つながり」を参加者と共に考えることができました。

今後に向けて

高齢者見守り隊事業は、平成18年4月からスタートし平成19年度内には府内25の全ての市町村社協で実施することになりました。今回のフォーラムで学びあったことをもとに、それぞれの地域の特徴に応じた見守り活動の展開を目指し、高齢者の暮らしの不安や困難をキャッチするしくみづくり、それを地域で共有し一緒に考える場づくり、必要なサポートのしくみやネットワークづくりをさらに推進していきます。

（文責 事務局）

社会福祉施設 しせつの損害補償 総合損害補償

ホームページでも内容を紹介しています。
<http://www.fukushihoken.co.jp>

社会福祉施設のさまざまなリスクに対応するために！

| | | |
|---|--|---|
| <p>プラン1</p> <p>施設の業務中事故賠償補償</p> <p>①基本補償</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本補償(A)は、法人業務を包括的に補償 ○見舞費用付補償(B)は、賠償責任のない場合の見舞金も補償 ○オプション・医療事故補償も充実 <p>②個人情報漏えい対応補償</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人情報漏えいによる法律上の賠償責任を負った場合(おそれのある場合を含む)に補償 ○クレーム対応費用、見舞品購入費用等を補償 | <p>プラン2</p> <p>施設利用者の傷害事故補償</p> <p>①入所型施設利用者</p> <p>②通所型施設利用者</p> <p>③不特定多数利用者</p> | <p>プラン3</p> <p>施設送迎車搭乗中の傷害事故補償</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設送迎車に搭乗中の傷害補償 ○施設の過失の有無は不問 |
| <p>プラン4</p> <p>施設職員の災害事故補償</p> <p>①施設の労災上乘せ補償</p> <p>②施設職員の傷害事故補償</p> <p>③施設職員の感染症罹患事故補償</p> | <p>プラン5</p> <p>施設の什器・備品損害補償</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設内の什器・備品を幅広い範囲で補償 ○施設の現金等も補償 | |

◆加入対象は、社会福祉法人等で運営している社会福祉施設です。

- 全国社会福祉協議会のスケールメリットを活かし、充実した補償内容
- 団体契約のため有利な補償と割安な保険料(掛金)
- 迅速で丁寧かつ適正なお支払い

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約(「賠償責任保険」「傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記をお願いします

| | |
|---------------------------------------|--|
| <p>社会福祉法人</p> <p>全国社会福祉協議会</p> | <p>株式会社 福祉保険サービス</p> <p>〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F</p> <p>TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763</p> <p><small>(引受幹事保険会社) 株式会社 損害保険ジャパン</small></p> |
|---------------------------------------|--|

2008年 日本地域福祉学会 第22回大会 開催のお知らせ

=協賛企画=

「春日からの発信」

2008年6月13日(金) 14:00~16:30

会場 新島会館(寺町丸太町上ル)

定員70名(先着順)

内容:高瀬博章氏(春日住民福祉協議会会長)
の講演とディスカッション

主催:NPO法人春日住民福祉協議会

「NHKで近所の底力」でも取り上げられた、
中京区春日学区の取り組みを紹介。

*大会にご参加いただく方のみ参加が可能です。

会期:2008年6月14日(土)10:00~16:30・15日(日)9:00~16:00

会場:同志社大学室町キャンパス・新町キャンパス(京都市)

大会総合テーマ:「地域福祉のフロンティア(最前線)―その先駆性・開拓性を問う」

主催:日本地域福祉学会・日本地域福祉学会第22回大会実行委員会

共催:近畿地域福祉学会・京都府社会福祉協議会・京都市社会福祉協議会

後援:京都府・京都市ほか

内容

<1日目> 基調講演「地域福祉のフロンティア―新島襄の生涯」

講師:本井康博氏(同志社大学神学部教授)

メインシンポジウム「地域福祉のフロンティア(最前線)―その先駆性・開拓性を問う」

シンポジウムA「地域福祉と障害者の自立生活―私たちの、〈今、ここ〉の課題」

シンポジウムB「貧困・孤立と地域福祉―尊厳ある暮らしを探究する京都からの発信」

シンポジウムC「混迷の時代を切り拓く実践と研究―社協の地域福祉実践を切り口として」

(シンポジウムはいずれかを選択)

<2日目> 自由研究発表/地域福祉優秀実践賞報告

国際セミナー/学会研究プロジェクト

「東アジアにおける地域福祉専門職養成の課題と展望―理論と実践の教育システムの構築」

参加申込:2008年5月14日(水)17:00必着「大学生協宿泊予約センター」にFAXで申込

※詳しくは、大会ホームページ <http://www.chiikifukushi.jp> でご確認ください。

事務局連絡先

〒602-0047 京都市上京区新町通今出川上る同志社大学社会学部社会福祉学科 上野谷加代子研究室気付

※申込書は、大会ホームページ <http://www.chiikifukushi.jp> からダウンロードできます。



「京都の福祉」へのご意見、感想、とりあげてほしいテーマなどお寄せください。
表紙の写真も募集しています。

本会へのご意見等は、右記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

京都の福祉 毎月1日発行
昭和36年7月26日 第3種郵便物認可

発行所 京都府社会福祉協議会

発行人 森 育 寿

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375

TEL 075-252-6291 FAX 075-252-6310

URL <http://www.kyoshakyo.or.jp>